

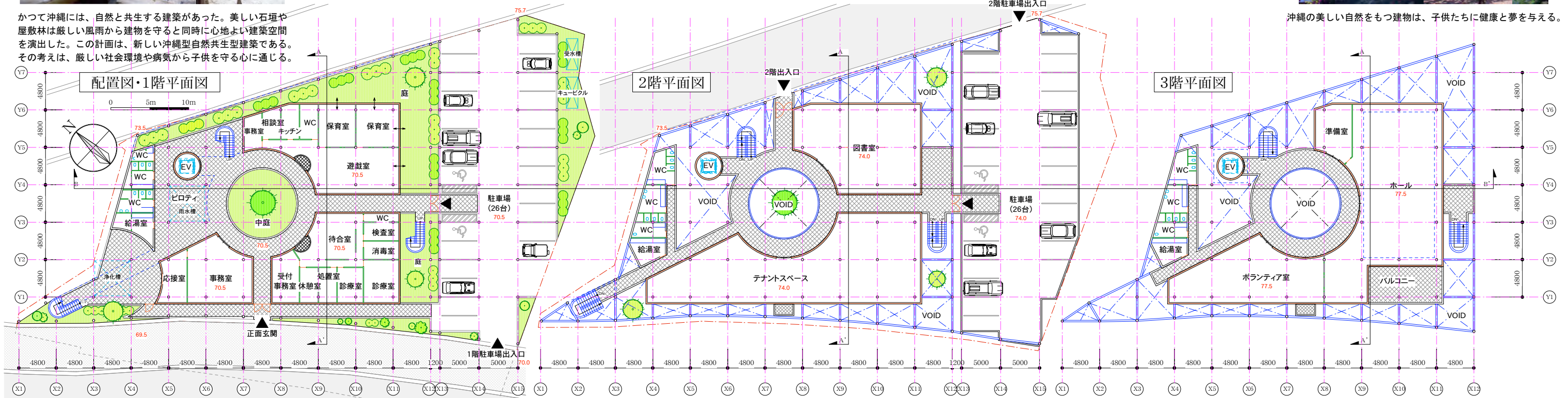
# 沖縄小児保健センター(仮称)建設プロポーザルコンペ



かつて沖縄には、自然と共生する建築があった。美しい石垣や屋敷林は厳しい風雨から建物を守ると同時に心地よい建築空間を演出した。この計画は、新しい沖縄型自然共生型建築である。その考えは、厳しい社会環境や病氣から子供を守る心に通じる。



沖縄の美しい自然をもつ建物は、子供たちに健康と夢を与える。



敷地は沖縄自動車道的那覇ICの南500m県道82号線新川交差点の近く、建設中の「南部医療センター・子ども医療センター」に隣接している。

交通の利便性はよいが、交通量が多い県道に面し、周辺環境はあまりよくない。そのため、この沖縄小児保健センター(仮称)は敷地境界に「外皮」を造りながら敷地内に最大限の広さをもつ『緑の半戸外の空地』を内包し、ガラス張りの各室や外廊下が連続する心地よい沖縄の建築空間をもつセンターを計画する。

配置計画 敷地の地形を生かし、土地を有効利用する。

敷地南東側に2層の立体駐車場、他方に3階建の小児保健センターを配置し、ふたつの道路レベルからアプローチできる配置とする。また、敷地内に中庭などを設け敷地全体を活用する。



建築計画 緑に覆われた木陰のような建築をめざす。

・沖縄型ダブルスキンの採用  
建物は境界線近くに鉄骨フレームにセメント成形板の「外皮」と「屋根ルーバー」をつくる。これは、周囲の環境の悪さ、強い直射しや風雨をコントロールし、開放的で心地よい室内空間をつくる仕掛けである。

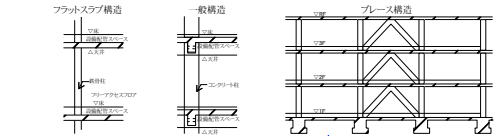
・沖縄型オープンプランの採用  
フラットスラブとフリーアクセスフロアとアルミカーテンウォールサッシに囲まれた各諸室は、半戸外の中庭や廊下に開かれている。そして、風が通り抜ける日蔭の空間であり、温暖な沖縄では年中使用できる小さい子供たちの遊び空間である。また、将来の諸室の模様替えも容易で自由度が高い。

・建物緑化  
太陽高度の高い沖縄では芝生の屋上緑化は有効だ。「外皮」と「屋根ルーバー」も強い直射しを遮りながら心地よい光や風を通しブーゲンビリアやツタなどはやす。

構造計画 透明性があり、強固な構造を目指す。

・フラットスラブ+ブレース構造の採用  
スパン4.8m、階高3.5mの単純明快な梁のないフラットスラブ+ブレース構造の採用により強固な構造とする。これは、構造躯体のローコスト化が計れると同時に外壁のアルミカーテンウォールとフリーアクセスフロアにより将来の模様替えが容易である。

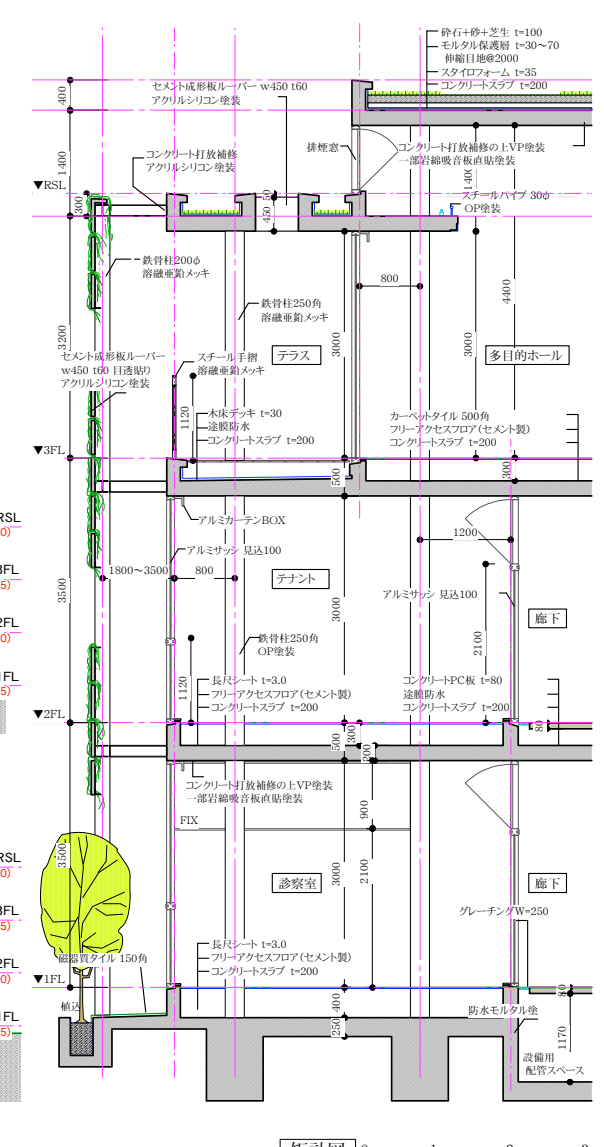
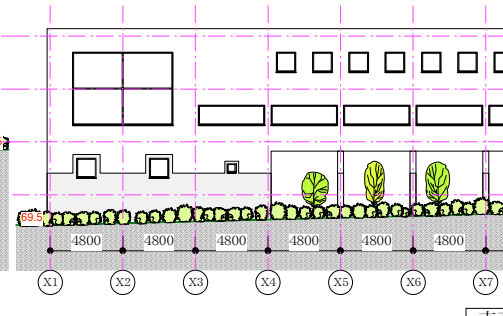
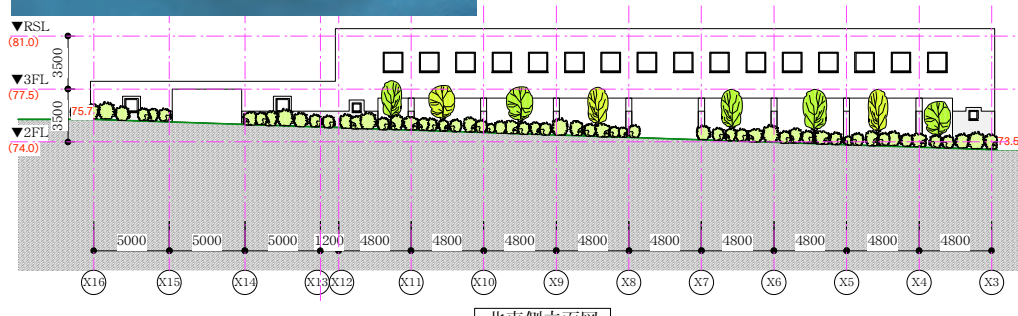
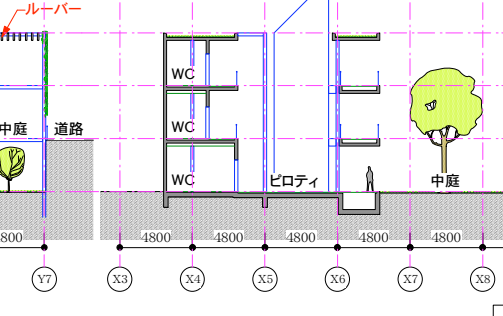
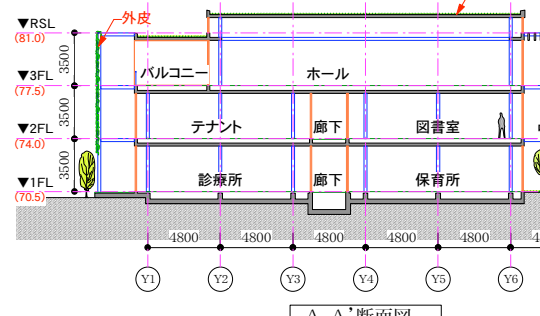
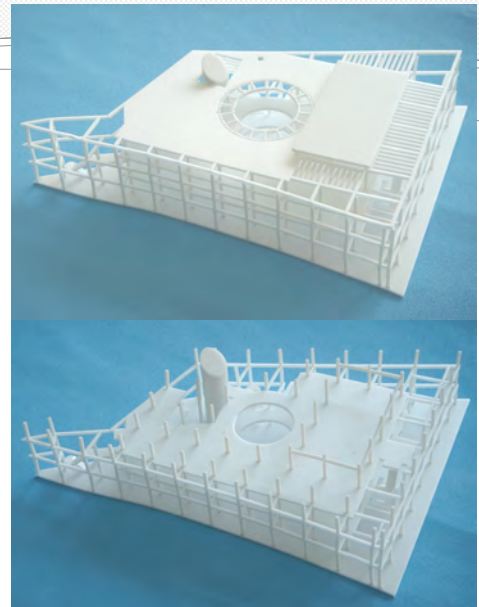
・耐久性の向上  
沖縄では構造躯体の塩害等による劣化が激しい。RC面などは塗装もしくはタイル貼りとする。また、スチール部分は亜鉛めっき材を使用し、フリーメンテナンスを目指す。基礎は1GLより約6m下に支持地盤があるのでP・C短杭とする。



設備計画 自然を生かした環境にやさしい設備をめざす。

・自然の活用  
雨水利用、屋上緑化  
・省エネ、省資源  
・中庭からの採光・通風  
・屋上緑化と屋上ルーバーによる断熱と遮光  
・省エネ、省資源タイプの設備機器

・完全バリアフリー化  
段差のない空間。身障者用サイン、EV、W・C、駐車場の設置  
・フレキシビリティとメンテナンス  
・フリーアクセスフロア内の設備配管  
・廊下はメイン設備配管スペース



北東側立面図 南西側立面図 断面図 0 1m 2m 3m